

極のドリフトFRインプレッサはここまで来た!



チームオレンジの登場により、ドリフトというカテゴリでも、インプレッサの戦闘能力の高さは認知されてきた。そのドリフトマシンのメンテを手がけるテックスモディファイには、さらにそれらの上をいく「ドリ車」が存在しているという。基本的なFRレイアウトはD1マシンと同様だが、ミッションはなんと、日産Z33のものを流用している。1速、2速は離れ気味で、それより上のギヤはクロスしているという特性により、高速ドリフトがしやすくなるというメリットが得られる。とはいっても、もちろんポン付けできるような簡単な流用ではない。

フロアの改造が行われるため、ミッション込みでも100万円オーバーというスペシャルモデルだ。フロントデフはロックし、リヤデフにはこれまた日産R200を持つてくる。これまで多数の日産車チューンを手がけているショップならではのポイントが多数見られる。オーナーが大のドリフト好きなことから誕生したこのFRインプレッサだが、エンジンはフーストアップと至ってシンプル。まずはノーマル10αのパワーを生かしきれだけの、サスペンションセッティングしつかりを整えたという状態。仕上がったばかりのドリ車、どう操る!?



フロントデフ内蔵のインプレッサに比べとスッキリして見えるZ33用。ドライブシャフト径の違いはワゴン追加工、フライホイールはGDBのもの。



ミッションの流用により位置が変わったため、シフトにもワゴン製部品が使われている。FFのラックが使われるといった秘案もあり。



フロントロアアーム(ナックル側)にはスチール製のGDA用を延長して流用している。キャンバー、キャストターを使いたいための流用テック。



フロントデフはロックさせている。このへんはD1参戦のFRインプレッサと同じだが、このマシンにはD1マシンでやれなかったワザが……。



リヤデフには日産のR200を採用した。日産車のチューニングをこなしてきただけあって、適用できるかどうかの判断がしやすいとのこと。



ミッションとドライブシャフトをつないでいる部分で、負荷のかかるドリフト走行により損傷するケースがよく見られたため、Z33流用に踏みぎった。

前置きインタークーラー用オイルクーラーキット登場

もはや珍しいことではなくなってきたインタークーラーの前置き化。その前置き化されたレイアウトだからこそ、のオイルクーラーキットが新発売された。セットアップの位置はノーマル時のインタークーラー設置場所。下にはタコ足が控えているだけに、万一のトラブルを心配する人もいだろうが、そのへんの処理も万全。

アールズのフィッティング、フレームガードによって対処されているからだ。価格は11万4000円で、工賃は3万円(前置き済み)からとなる。これからインタークーラーを前置きしようと考えている人は、同時の作業メニューとして組み込むのもいいかもしれない。適合はGDBのC~G型(A、B型は未確認)だ。



キットには取り付け手順をくわしく説明しているものが入っているのでも、上級レベルの人ならDIYでも取り付け可能。



下まわりを見てもうえば、熱対策のためにフレームガードアールズ製が用いられているのが一目瞭然、よくわかるだろう。

